弘前市出身の直木賞作家長部日出雄さんは、映画製作の夢止みがたく、平成元年、ご自身の原作・脚本による監督作品「夢の祭り」を発表しました。映画では、津軽三味線が軽快に鳴り響き、津軽の、東北の、縄文の血が騒ぎます。

映画公開後 20 年以上が経過し、時あたかも津軽のシンボルである弘前城築城４００年です。弘前城が４００年という長きにわたっていつも私たちとともにあるように、津軽三味線の音が心にずしんと響く映画「夢の祭り」もまた、映画公開時も、現在も、そして何十年後も見続けたいと願わずにはいられません。

残念ながら、「夢の祭り」の上映プリントは、当時の傷だらけのプリントが１本残っているのみです。「夢の祭り」をニュープリントで見よう。そして、この映画が、これからもずっとずっと見ることが出来るように、日本で唯一の公的映画上映・保存機関である東京国立近代美術館フィルムセンターに所蔵してもらおう。当実行委員会はこのように思い立ち、著作者である長部さん、著作権者であるアスミック・エース エンタテインメント株式会社、そして東京国立近代美術館フィルムセンターとの間で協議を重ね、このたび当実行委員会の手によって「夢の祭り」のニュープリントが完成しました！　東京から長部さんにも駆けつけていただき、みんなで 22 年ぶりの「夢の祭り」を堪能いたしましょう。

お祭りはそれだけではありません。２日目「弘前の日」では弘前にちなんだ映画を、３日目「祭りの日」では祝祭的雰囲気に満ちあふれた映画を選りすぐって上映いたします。題して「映画は、夢の祭り」の開幕です。

弘前城築城４００年映画祭実行委員会
委員長　三上雅通

◤ チケット

《夢の祭りの日チケット》(講演会＋「夢の祭り」鑑賞券)
2000 円【枚数限定】

《弘前の日・祭りの日チケット》
１回券 前売 1000 円　当日 1200 円
３回券 2500 円 ＊前売のみの取扱
学生１回券 500 円 ＊当日受付にて学生証をご提示ください

《取扱店》
弘前中三、まちなか情報センター、百石町展示館、
紀伊國屋書店弘前店、弘前大学生協、成田本店しんまち店

《予約・問合せ》
弘前城築城４００年映画祭実行委員会事務局（harappa 内）
電話 0172-31-0195　E-mail post@harappa-h.org

◤ 会場／弘前中三 8F スペース・アストロ

お車でお越しの方、中三指定駐車場（中三御幸町駐車場、ナカサンパーキング一般有料駐車場）をご利用ください。3 時間まで無料サービスとなります。 上映会場受付にて駐車券をご提示ください。

◤タイムテーブル

【12 月 9 日(金)】《夢の祭りの日》
18：00「夢の祭り」ニュープリント完成セレモニー
　　長部日出雄 講演会 “まさに「夢の祭り」”
19：00「夢の祭り」

【12 月 10 日(土)】《弘前の日》
10：30「夢の祭り」☆監督舞台挨拶あり
13：30「石中先生行状記」
15：50「草を刈る娘」
18：00「男はつらいよ 奮闘篇」

【12 月 11 日(日)】《祭りの日》
10：30「夢の祭り」☆監督舞台挨拶あり
13：30「オーケストラ！」
16：10「スウィングガールズ」☆監督舞台挨拶あり
18：30「フラガール」

弘前城築城400年祭

弘前城築城四百年映画祭
映画は、夢の祭り

12月9日(金)～11日(日)
弘前中三 8F・スペースアストロ

【12 月 9 日(金)】《夢の祭りの日》
18：00「夢の祭り」ニュープリント完成セレモニー
　　長部日出雄 講演会
19：00「夢の祭り」(長部日出雄)

【12 月 10 日(土)】《弘前の日》
10：30「夢の祭り」(長部日出雄)
13：30「石中先生行状記」(成瀬巳喜男)
15：50「草を刈る娘」(百河克己)
18：00「男はつらいよ 奮闘篇」(山田洋次)

【12 月 11 日(日)】《祭りの日》
10：30「夢の祭り」(長部日出雄)
13：30「オーケストラ！」(ラデュ・ミヘイレアニュ)
16：10「スウィングガールズ」(矢口史靖)
18：30「フラガール」(李相日)

主催　弘前城築城４００年映画祭実行委員会
共催　弘前城築城４００年祭実行委員会
後援　弘前市、弘前市教育委員会、弘前商工会議所、
　　(社)弘前観光コンベンション協会、
　　東奥日報社、陸奥新報社
協力　弘前ペンクラブ、NHK 文化センター弘前、弘前中三、
　　ワーナー・マイカル・シネマズ弘前、NPO 法人 harappa

たか丸くん

まさに『夢の祭り』

長部日出雄

すべてはアート・ブレイキーと三橋美智也から始まった。

一九六〇年代のはじめ、革新的なドラマーのアート・ブレイキーが率いる「ジャズ・メッセンジャーズ」（代表曲は『モーニン』）が来日して、わが国にも熱狂的な「ファンキー・ブーム」が起こった。

そのころ流行の現象を追う週刊誌の記者だったぼくは、早速、米軍のキャンプを訪ね、そこのクラブで歌う黒人のシンガーに「ファンキー・ジャズ」とは如何なるものであるかを訊ねてみた。

それは、あまりに白人化し、商業主義的になりすぎたジャズに、黒人本来の土臭い感覚を取り戻そうとする演奏活動なのであった。

そしてその黒人シンガーは意外なことをつけ加えた。

「こないだ日劇で観たミハシ・ミチヤの歌と、弦楽器で伴奏したブレイヤーの音楽は、われわれのファンキー・ジャズと同じものだ」

たまたまぼくもその舞台に接していたのだが、三橋美智也の民謡の伴奏をしたブレイヤーとは、津軽三味線の木田林松栄だった。

そうか、あれでよかったのか……と、ぼくは唸るおもいで実感した。

敗戦後の日本は、かなり長いあいだ、新しいものこそ正しく、古いものは全て間違っている……という風潮に支配されてきた。

ところが、世界でも最新流行の音楽と聞いて取材に行ったファンキー・ジャズの歌い手に、戦後育ちのこちらが遥去の古臭いものとおもい込んでいた津軽民謡こそファンキーな音楽だと教えられたのである。

たしかに取材を進めて行くと、インプロヴィゼーション（即興演奏）を主体とする点において、ジャズと津軽三味線には、本質的に共通する点が多いのであった。

それから約十年後の冬、津軽三味線の弾き手を主人公にした小説を書こうと、東京のマスコミでやっていた仕事を一切やめて、弘前に帰り、二年四箇月のあいだ津軽中を回り歩いて書いた『津軽じょんから節』と『津軽世去れ節』で、ぼくは幸運にも直木賞を受賞することができた。

さらに十数年後、津軽三味線の弾き手を主人公に、自ら監督して音楽映画『夢の祭り』を制作した。

初めは徒手空拳のところから出発し、しだいに製作者、出資者、俳優陣、スタッフの協力を得られ、映画製作の最初から最後まで、簡単には語り尽くせないほどの苦しみと歓びを、終始つぶさに骨髄に徹して味わった。

その映画が、こんど「弘前城築城４００年映画祭実行委員会」の並並ならぬお骨折りにより、ニュープリントで面目を一新して、二十二年ぶりに弘前で上映されることになった。

作者にとっては、これこそまさしく奇跡的な『夢の祭り』であって、ご尽力いただいた関係者各位に心から感謝の意を表したい。

あとは観客の反響を待つばかりだ。

夢の祭り【ニュープリント】☆長部監督舞台挨拶あり

1989年 / アスミック・エース
114分 / 35mm
監督 / 長部日出雄
出演 / 柴田恭兵、有森也実、佐野史郎、織本順吉、馬渕晴子

津軽三味線に魅せられた小作人のせがれ・健吉（柴田恭兵）は、父親にどやされながらも三味線ざんまい。秋祭りの三味線競争に出場するが、地主の息子（佐野史郎）の悪巧みによりあえなく敗退し、修業の旅へと向かう。魔性の女（加賀まりこ）と暮らす天才三味線弾き（佐藤慶）に教えを請うも、「地獄を見るだけだ」と拒絶される。しかし、ようやくにして彼の津軽三下がりを聴かせてもらった健吉は、その音色を胸に秘め、再び三味線競争で敵と対決するのである。

石中先生行状記

1950年 / 東宝
96分 / 35mm
監督 / 成瀬巳喜男
出演 / 宮田重雄、渡辺篤、堀雄二、
進藤英太郎

(C) 東宝

石坂洋次郎の原作をもとに、成瀬巳喜男が監督をつとめた三話構成のオムニバス映画。故郷の城下町（弘前）に住む小説家石中先生（石坂洋次郎を思わせる）の周囲で起こるエピソードがローカル色豊かに描かれている。「第一話 隠退蔵物資の巻」では木匠久美子と堀雄二、「第二話 仲たがいの巻」では杉葉子と進藤英、「第三話 千草ぐるまの巻」では若山セツ子と三船敏郎、３組の若い男女の恋の行方が微笑ましい。前年公開の『青い山脈』へのオマージュともいえる作品。

草を刈る娘

1961年 / 日活
88分 / 35mm
監督 / 西河克己
出演 / 吉永小百合、浜田光夫、望月優子、清川虹子、大坂志郎、菅井きん

(C) 日活

岩木山麓に馬草を刈る季節がやってきた。「おら、草刈りに来たで、嫁捜りに来たでない」とモヨ子は言うが、草刈りの季節は見合いの季節だ。「百万人の作家」石坂洋次郎は、日活の文芸作品と青春映画に多数の原作を提供したが、戦後民主主義への期待と健康なエロティシズムが溢れた短編小説を、アイドル映画の職人・西河克己が吉永小百合と浜田光男の二人に、世話焼きの望月優子と清川虹子を配して、明朗青春映画に仕立てた。吉永小百合の劇中歌、望月と清川の掛け合い歌唱も聞き逃せない。

男はつらいよ 奮闘篇

(C) 1971 松竹

1971年 / 松竹
92分 / 35mm
監督 / 山田洋次
出演 / 渥美清、倍賞千恵子、榊原るみ、
光本幸子、ミヤコ蝶々

全48本作られた国民的人気シリーズの第７作。世話をした少女の生まれ故郷を訪ねたはずの寅さんを探しに、妹のさくらが津軽を訪れる。五能線の乗り換え列車を待って弘前駅のホームに佇むさくら、海鹿事故を予感させる西海岸の時化（しけ）た海、暖かい陽射しを浴びて冠雪けの岩木山麓を走る弘南バスが、津軽の観客に親しみと懐かしさをもたらす。長部日出雄の『邦画の昭和史　スターで選ぶDVD１００本』（新潮新書）には、撮影合間に蕎麦屋「高砂」（弘前市）を訪れた寅さん＝渥美清が活写されている。

オーケストラ！

(C) 2009 - Les Productions du Trésor

2009年 / ギャガ
124分 / 35mm
監督 / ラデュ・ミヘイレアニ
出演 / アレクセイ・グシュコフ、
メラニー・ロラン、フランソワ・ベルレアン

かつて天才指揮者とうたわれたアンドレは、旧ソ連の粛正にあって今はさえない劇場清掃員。そんな彼が秘策を練って、共に音楽界を追われた演奏家たちとともにボリショイ交響楽団に成り済まし、パリへと向かう。果たして公演は成功するのか、ばれるのか。彼がソリストに指名したフランスの美人バイオリニストとはどんな因縁があるのか。最後に演奏されるチャイコフスキーのバイオリン協奏曲が高らかに鳴り響く頃、謎も明かされ、観客はみんな総立ちとなる。ブラボー！

スウィングガールズ ☆矢口監督舞台挨拶あり

2004年 / 東宝
105分 / 35mm
監督 / 矢口史靖
出演 / 上野樹里、貫地谷しほり、
本仮屋ユイカ、豊島由佳梨

(C) 2004 フジテレビジョン／アルタミラピクチャーズ／東北／電通

東北地方のとある片田舎。13人の落ちこぼれ女子高生は夏休みにもかかわらず、ぶつくさ言いながら補習の最中。授業をさぼるため、食中毒で入院した吹奏楽部のピンチヒッターに応募した13人は、いつの間にやらビッグバンドにはまりこむ。吹奏楽部をお払い箱になっても「ジャズやるべ！」の気持ちはつのるばかり。演奏の楽しさが忘れられず、とうとうバンドを結成して、彼女らの奏でるデューク・エリントンの「A列車で行こう」が軽快にスウィングする。

フラガール

(C) 2006 BLACK DIAMONDS

2006年 / シネカノン
120分 / 35mm
監督 / 李相日
出演 / 松雪泰子、豊川悦司、蒼井優、山崎静代

昭和40年、福島県いわき市の炭鉱町。炭坑の閉山で活気を失った町に「常磐ハワイアンセンター」が計画される。その目玉はフラダンスショー。元松竹歌劇団のダンサー平山まどか（松雪泰子）がフラダンスの教師として東京から招かれるが、ダンサー志望の少女たち（蒼井優、山崎静代 etc）は、もうズブのシロウトばかり。先生は完全にやる気を失ってしまう。しかし孤特訓が実って、フィナーレを飾るは迫真のフラダンスショー。がんばれフラガール、がんばろうフクシマ！